

2026年12月期 第1四半期 決算説明会 主な質疑応答 (要約)

1. 連結 会社想定比での1Q進捗について。ブランド別の状況はどうだったか。

連結で、売上高は約3億円の下振れ、営業利益は約14億円の上振れ。営業利益の上振れは費用のアロケーションによるもので、2Q以降に費用対効果の最大化を狙った費用執行を行っていく予定。年間見通しに変更はない。ブランド別では、ポーラは売上高が約8億円の下振れ、営業利益が約6億円強の上振れで、営業利益の上振れは費用のアロケーションによるもの。オルビスは売上高が2億円強の上振れ、営業利益が6億円弱の上振れ。オルビスの営業利益は、増収に加え、ポーラと同様に費用アロケーションの影響もあり、想定を上回った。Jurliqueの売上高は想定に近い水準、営業利益は約2億円想定より改善。

2. 連結 売上原価が上昇している背景について。

原価率の低いポーラの売上構成比の低下によるミックス変化が影響。一方で、全体的に原材料価格は上昇傾向にあり、今後も上昇リスクはあるとみている。コストコントロールにより通期の利益計画への影響が出ないようにしたい。

3. ポーラ サロンチャンネルにおける二次流通抑制強化の影響を除いた実績と見通し。

二次流通抑制強化の影響を除いた減収率は△1%で想定通りの着地。年間では、二次流通抑制強化の影響を除くと1-2%の増収を見込んでいる。

4. ポーラ 売上が想定を下回ったのはどのチャンネルか。

主な要因は百貨店チャンネル。インバウンド、内需ともに計画を下回った。内需は、前年同期にリンクルショットシリーズから新製品を発売しており、その反動減をB.Aのリニューアルで補いきれず下振れとなった。

5. ポーラ 前期は結果的に想定ほど費用を使わなかったが、今期は計画通りに使う予定か。

使う計画ではあるが、売上高の状況に応じて費用対効果を見極めて投資を行う必要があると考える。

6. ポーラ 海外事業の状況について。中国ローカルブランドの存在感が強まっているか。

中国はオンライン販売が好調だった。一方で不採算店舗の閉鎖を進めているオフライン販売は減収となったため、中国全体では現地通貨ベースで前年比横ばいの着地。中国ローカルブランドは力をつけており、競争環境としては厳しくなっている。海外事業全体としては、免税チャンネルの出荷タイミングの期ずれにより減収となったが、通期は想定線での着地を見込んでいる。

7. オルビス 想定値を上回った背景は。シニア層向けの取り組みは進んでいるのか。

直販チャンネルは想定線で着地、外部チャンネルが引き続き好調に推移した。特にクレンジングオイルが牽引。シニア層向けの取り組みについては、マーケティング投資について、どのようにターゲット層と接点を持つていくかの検証を進めており2Q以降に戦略的に実行していく。

8. オルビス 外部チャンネルにおける店頭取り扱い商材を拡充させたいと考えているか。

ヘアケア商材のヒットをきっかけに配荷が進んでおり、現在は、スキンケアやUVケア商材も展開している。さらに商材を拡充していきたい。

9. THREE 久しぶりの前年比増収となったが、継続性はあるか。

ホリスティック商材を強化するリブランディングを進めており、THREE ブランド全体でその効果が出ていると認識。継続性があるものとみている。

10. その他 中東情勢による業績影響は、減産や新商品発売スケジュール変更の可能性はないか。また、1Q の営業利益の上振れ要因には中東情勢を鑑みた費用コントロールも含まれるか。

関連地域へは展開しておらず、売上高への影響はない。製品供給の遅滞は現時点では発生していない。原材料の調達において取引先から値上げの話は出ているが、コストアップ分を吸収できるようコストコントロールをしていきたい。1Q の営業利益の上振れは費用アロケーションによるものであり、中東情勢を踏まえたコストコントロールではない。

11. その他 原材料価格上昇に伴う商品値上げの可能性について。

一部値上げ要請を受けている原材料もあるものの、どの程度の影響が出てくるかについては精査中。コストコントロールにより吸収していきたい。現時点で通期想定を見直すほどの影響は見込んでいない。既存製品の一律値上げは現時点で確定したものはない。昨年リニューアルした、ポーラ B.A シリーズのようにリニューアルのタイミングでの値上げは従来のように実施する可能性がある。

12. その他 国内市場における価格帯別、販売チャネル別の動向は。

当社の保有する市場データに基づくと、市場全体で 1 万円以上の価格帯は前年比で若干のプラスの状況。中価格帯、低価格帯が落ちている。販売チャネル別では、百貨店は全体で 1 桁後半のマイナスとなっているが、高価格帯の状況は悪くなく、中価格帯の低迷が全体のマイナスに影響していると認識。1 万円以上の高価格帯が安定的に推移していることは、ポーラにとって追い風であると考えている。

13. その他 日中関係の影響について。

中国からの訪日観光客数は大きく減少しており、支出先も宿泊費や飲食費に向ける割合が高まっているようだ。当面インバウンドのこうした傾向に変化は見られない見通し。

【注意事項】

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、決算説明会の質疑および、前後における問合せをもとに、当社の文責により趣旨を要約（順序不同・補足・補正）したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている業績見通しや将来予測などに関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。